

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー機関誌

2018年11月号

はなしあい

題字 元総理 片山哲 筆

発行編集人

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー
代表理事 小久保 正

発行所

日本クリスチャン・アカデミー
京都市左京区一乗寺竹ノ内町23
075 (711) 2147

NIPPON CHRISTIAN ACADEMY

第599号

最近たまたま「明日へつな
げよう未来塾―池上彰エネ
ルギー街道をゆく」というN
HKTVの番組を見る機会が
あった。最初に、川内原発の
再稼働に対し20〜39歳の人の
76%が「どちらかと言えば賛
成」と答えたと紹介された。
次いで池上彰が普段からエネ
ルギーに強い関心を持つ学生
6人と共に、福島原発事故
の跡などを二日間に亘ってバ
スで訪ね、日本のエネルギー
の未来について語り合った様
子が放映された。

出発前「2050年にメイ
ンとするべき発電方法をひと
つ選べ」という問いに、彼ら
は全員原子力発電と答えた。
経済成長には原発を欠かせな
い、多少の犠牲はやむを得な
い、などの意見もあった。現
政権そっくりの意見である。
原発事故後避難している人
や、事故のあった地域で太陽
光発電に励んでいる人を訪ね
たバスツアーの後には、原発
維持を主張する人が2名まで
減ったが、バスツアー前の学

生の意見が、現在の日本の平
均的学生の意見を代表してい
ると言えるであろう。

彼らはきっと、チェルノブ
イリやフクシマの原発事故の
被災者の苦しみに触れる機会
が無く、大量の使用済み放射
性核燃料を捨てる用途が立っ
ていないことを知る機会もな

この終わらざる課題

関西セミナーハウス活動センター運営委員長
小久保 正



方的情報だけを何の疑いもな
く受け入れ、日本の将来を決
める重要な選択も、現政権に
白紙委任する結果を招いてい
る。しかし、そうした姿勢が
次の世代に取り返しのかつかな
い負債を負わせることになる
ことを恐れねばならない。

く、放射性物質を作り出さな
い太陽光や風力や地熱などの
再生可能エネルギーでも必要
なエネルギーを賄えることを
知る機会が無く、世界は再生
可能エネルギーを生かす方向
に大きく動いていることも知
る機会が無いのである。そ
の結果、現政権が発信する一

私たちは、それを危惧する
者として、実直に、飽きず
原発のはらむ問題をしっかりと
学び直し、代案がないかを
探り、提言する者でありたい
と願っている。それを若い世
代に届く言葉として発信して
いきたい。
そのため、2019年のお
正月には、7回目の原発を基
本に立ち帰って考える修学院

フォーラムを開く。今回は先
ず、最先端の地球科学に通じ
ている京都大学名誉教授の竹
本修三先生に、最新の学問的
成果によれば地震や津波、火
山の起きる時と場所を予測
し、原発を災禍から守ること
が可能なかを語っていただ
くことにした。

次いで、ドイツのエネルギー
供給に関する倫理委員会やキ
リスト教会の原発に関する取
り組みに詳しい上智大学外国
語学部教授の木村護朗クリス
トフ先生に、ドイツではどう
して早々と原発を全廃し、再
生可能エネルギーに転換する
方向に舵を切ることができた
のか、なぜ日本ではそれが出
来ないのかを語っていただく
ことにした。木村先生は、若
い世代とこのようなテーマで
対話を重ねてこられた方であ
る。
様々な年代の方々が集まっ
てくださり、豊かな話し合い
が展開されることを期待して
いる。
(京都大学、中部大学名誉教授)

関東活動センター

●2018年度 聖書を読む講座
〈新しい聖書の学び〉

「マルコ福音書をジツクリと読む」(全10回)

講師 日本フェミニスト神学・宣
教センター共同ディレクター 山口 里子さん
2018年4月〜2019年2月第2火曜
会場：早稲田奉仕園スコットホール
共催：早稲田奉仕園

講座に参加して

林 弘恵

講座の募集案内に、講師の山口里子さんのことば「最初の福音書といわれる『マルコ』による福音書」をすこしずつジツクリ読み進めます。その過程で、フェミニスト、ポストコロニアル、クイア、障碍の神学などからの新しい読み方も随時紹介していきます。「温故知新」のような学びを通して、イエスが語ったこと



の真意、また当時の人々のこと、そして私たちの人生なども新しく一緒に思い巡らしませんか？一つの解釈を絶対化せず、「信じない」自由も尊重し合う、そんな楽しく刺激的な学びの場としたいと願っています」と有ります。参加されたみなさんは、この文章のどこかに魅力を感じ受講されたと思います。私は「イエスが語ったこと」の真意の文字に惹かれました。歴史のイエスが何を語ったのか分かるかも、安易な期待をしました。募集案内をジツクリと読めば、何らかの答を与えられると期待している読み手(私)に、「随時紹介していきます」「一つの解釈を絶対化せず」「一緒に思い巡らし」

と、答えが与えられる所ではありません、と最初に釘をさされておりました。

それでは、この講座は期待通りではなかったのか？それは、NOです。里子さんが紹介する論説を元に、幅広い参加者(教派を越えた牧師・神父・教会員、教会には属していない方々)から縦横無尽に意見や質問が湧いてきます。殆どの質問に里子さんはかなり丁寧に応答されます。時には、里子さんから「みなさんはどう思います？」と展開され、自分では全く疑問にも思っていなかったことに向き合うこととなります。この里子さんと参加者の受け答えこそが、期待を超える「醍醐味」と感じています。

講座の1回目ではマルコ福音書の1章1節(初めのことば)だけを学び、現在6回終了時点で未だ1章45節です。毎回、毎回時間が足りないほど、ジツクリと濃い時間を過ごしています。さて、この学びは何年がかりになるのでしょうか。

私は宗教に関心はあるが、信仰からは遠い人間だ。そういう自分になぜ山口里子さんの講座に関心を持つのか。里子さんは信仰の対象としてのイエスと歴史のイエスの間に在る、聖書の言葉によって作られた「ズレ」を、聖書の書き手である思想家の言葉、その時代・社会の空気の中に置くことで明らかにしようとしている。しかし、歴史上のイエスそのものが、主に聖書の言葉によってしか示されていないので、信仰の対象としてのイエスを常に相対化してしまう危うさがあると思う。けれど私も私にとっては、そこが共感するところだ。つまり、里子さんは、多分、信仰者として生きていると思うが、その里子さんの生きる思想の根拠を、(研究は)絶えず問い直している作業だと思えるからだ(信仰は信仰と、思考から切り離してしまえず選択もあり得るが、しかし、そうであればそもそもズレを問題にする意味がなくなってしまう。問題意識は日本の私たちの「家長制」の現実在るよ

講座の感想

山家 誠一

私たちの日々の暮らしは、ある種の人権思想や損得感情に支えられ、もしくは支配されて営まれている。だが、それらはしばしば矛盾する。私は人それぞれ個性があり、その多様性が大事だと考えている。だから、ヨーロッパやアメリカの移民・難民の排斥運動は由々しき事態だと思っ

ている。しかし、その私が暮らす日本は移民・難民を端から排除していることをあまり意識しない。辺野古新基地建設反対運動をしながら、一方で米軍基地を立川の自衛隊基地に持ってくる運動をしている人について聞いたことがある。正しいと思った。アメリカの核の傘の下で暮らしていることをさしあたってやむを得ないと思っっているならば、辺野古新基地建設反対は、米軍を立川に持ってくる運動とセットでなければ、米軍基地の大半を沖繩に押し付けていることは解決しない。私たちがの一つ一つの態度決

定の根つ子に在る倫理観や本音を問い直して行くことと、里子さんの問い直し作業は重なる気がして、刺激的なのだ。だから、講座の最後に在



長年、ビルマ(ミャンマー)にて現地を取材し、現地の人々と関わってきた講師から、ロヒンギャ難民の背景にあるビルマ(ミャンマー)やロヒンギャの問題について、民族や宗教、歴史、政治、メディア・国際社会など多様な視点から話を伺った。ビルマ(ミャンマー)問題の結果としてロヒンギャ問題が起こり、その結果としてロヒンギャ難民問題が発生している

関西セミナーハウス活動センター

●2018年度「開発教育セミナー」第3回
 「ロヒンギャはなぜ難民になったのか?」
 ～ビルマ(ミャンマー)の来し方行く末

フォトジャーナリスト 宇田 有三さん
 2018年9月15日(土)～16日(日)

る話し合いはとても大事だと思ふ。そこは里子さんの問いかけを私たち一人一人の日常の現実感覚と交差させる場面になり得るからだ。



ため、第一セッションではビルマ(ミャンマー)問題、第二セッションでは、ロヒンギャ問題、第三セッションではロヒンギャ難民問題について、それぞれ多角的な視点から理解を深めた。ビルマとミャンマーという呼称一つ



キリスト教と戦争というテーマは抽象的に論じても仕方がないところがある。単純な思想の問題ではなく、具体的な行動、実践をともなうことだからである。そこで歴史を探ってみようと、今回はシリーズを企画した。今回は宗

●2018年度 修学院フォーラム「社会」第4回
 宗教と戦争を考える(6)
 「宗教改革者たちの戦争観」
 —キリスト者がこの世に生きるということ—

同志社大学神学部教授 村上 みかさん
 2018年10月6日(土)

を取り上げて、その背景に国家や民族、言語等が複雑に関わっているように、ロヒンギャ難民問題においても、その背景に目を向け、宗教や民族の違いに単純化されるのではなく、軍事政権の差別化の構造をとらえ、理解を深める必要がある。現在報道されて

いるロヒンギャ難民問題だけに焦点化しても解決することはできず、背景にある事実を目を向け、対話をしていくことが大切であるという視点を学び、これから私たちがどう向き合い、社会が目指すべきことについて考え合うことができた。

教改革期に焦点を絞り、宗教改革者の戦争観について同志社大学の村上みか先生にご講演をお願いし、話し合いの時間をもった。
 世俗権力を肯定し、二王国論から戦争を否定しなかったルター、同様に社会秩序の観点からツヴィングリもカルヴァンも権力と戦争を否定しない。これに対してミュンツァーは改革者として反乱を起し、再洗礼派は絶対平和主義の立場をたらぬき処刑された。戦争が多発した時代に、神の国ではないこの世に対し

てキリスト者としてどのような関わったのか。主流派は人間の罪の現実から楽観主義に陥らずに現実路線を選択したと言える。

話し合いでは、主流派に対して賛否の主張が入り乱れた。平和を唱える者は覚悟をもっているものであって、実現不能かもしれないが、それでも平和を唱えているし、それしか道はないのではとの見解もあれば、絶対平和主義者は結局、社会の中で権力に護られているから主張可能なのであって、それ自体は理想論にすぎないとの見解、その他さまざまなヴァリエーションで意見が飛び交った。具体的に歴史に学びつつ、このテーマをさらに追及していきたいと願う。(土井健司)



プログラム案内

◆**関東活動センター**

■**2018年度関東フォーラム 宗教対話IV**

第 4 回 柏木義円公開講演会 (共催)
「柏木義円の眼で見る今日の日本」
～「良心之全身ニ充滿セル丈夫」として

講師：山口 陽一さん (東京基督教大学学長)

日時：11月17日(土)14:00～16:30

会場：日本キリスト教会館1階16号室

参加費：1,000 円/学生 500 円

主催：柏木義円研究会

■**2018年度関東フォーラム 宗教対話V**

礼拝の話し方ワークショップ (ステップ・アップ講座)
「礼拝の言葉を豊かに」

講師：友野富美子さん (経堂緑岡教会副牧師、元声優)

日時：2018年9月～2019年2月 (全6回)

④12月4日⑤2019年1月8日

火曜 15:00～17:00

会場：日本基督教団巣鴨ときわ教会

参加費：1 回 1,200 円

■**2018年度聖書を読む講座I**

新しい聖書の学び「マルコ福音書をジックリと読む」(全 10 回)

講師：山口 里子さん (日本フェ

ミニスト神学・宣教センター共同ディレクター)

日時：4月～2019年2月 第2火曜 18:30～20:00

⑧12月11日、⑨2019年1月8日

会場：早稲田奉仕園スコットホール 222 号室

参加費：1,200 円/学生 500 円

共催：早稲田奉仕園

■**2018年度関東フォーラム 宗教対話I**

「日本キリスト教史を読む」II (大正篇全 7 回)

講師：戒能 信生さん (日本基督教団千代田教会牧師)

第 7 回「矢内原忠雄の生涯とその人格的信仰」

日時：12月13日(木)14:00～16:00

会場：早稲田奉仕園セミナーハウス 101 号室

参加費：500 円

◆**関西セミナーハウス**

■**月釜 清心会**

日時：12月9日(日)9:00～15:00受付於：関西セミナーハウス

年会費：4,000 円、臨時会費 1,000 円

◆**関西セミナーハウス・関西セミナーハウス活動センター共催**

◆**関西セミナーハウス活動センター**

■**2018年度お茶のこころと宗教のこころ**

「聖書をいっしょに読みましょう」(全 8 回)

座長：榎本 栄次さん (日本基督教団牧師)

日時：⑧12月6日(木)13:30～16:30

会場：関西セミナーハウス

参加費：1,500 円 学生 500 円

定員：20 名

■**2018 年度開発教育セミナー**

第 6 回「"スマート"でないスマホの

裏側～鉱物資源の採掘からEVまで」

講師：田中 滋さん (PARC アジア太平洋資料センター事務局)

日時：12月8日(土)16:00～9日(日)12:00

会場：関西セミナーハウス

参加費：10,700 円 (1泊2食、京都市宿泊税込)

■**2018年度修学院フォーラム「社会」**

第 5 回「今こそ憲法を！武器で日本を守るのか？」

講師：岩佐 英夫さん (弁護士)

日時：12月8日(土)13:30～17:30

会場：関西セミナーハウス

第 6 回「エネルギーを考える第 7 回」

「地震国日本で原発は安全であり得るか？なぜ再生エネルギーに踏み切れないのか？」

講師：竹本 修三さん (京都大学名誉教授)

木村 護郎クリストフさん (上智大学外国語学部ドイツ語科教授)

日時：2019年1月13日(日)16:00～14日(月祝)16:00

会場：関西セミナーハウス

参加費：14,200 円 学生 5,200 円 (1泊3食、京都市宿泊税込)

東 西 南 北

◎木村量好牧師 (元財団理事・評議員・関西運営委員)

10月31日ご逝去されました。

アカデミー発展への長年のご尽力に感謝し、謹んで哀悼の意を表します。

財団本部 <http://www.academy-nippon.com>
 関東活動センター <http://www.academy-tokyo.com>
 関西セミナーハウス <http://www.kansai-seminarhouse.com/>
 関西セミナーハウス活動センター <http://www.academy-kansai.org>

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー

代表理事 小久保 正

本部事務局

〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町 23
 TEL 075-711-2147
 FAX 075-701-5256

関東活動センター

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18
 日本キリスト教会館 1F
 TEL 03-3207-6198

E-mail: info@academy-tokyo.com

関西セミナーハウス /

関西セミナーハウス活動センター
 〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町 23
 FAX 075-701-5256

関西セミナーハウス

TEL 075-711-2115

E-mail: info@kansai-seminarhouse.com

関西セミナーハウス活動センター

TEL 075-711-2117
 E-mail: office@academy-kansai.org

関西セミナーハウス

<修学院きらら山荘>

緑豊かな中に、大小 6 会場、茶室、能舞台もあります。各種セミナー、学会、会議、合宿など多目的に。

個人様のご宿泊にも気軽にご利用ください。

お問合せ TEL 075-711-2115(代)

賛助会費・寄付金報告

2018 年 9 月 1 日～9 月 30 日(順不同・敬称略)

◆**関東活動センター**

寄付金

神保 正男 30,000

◆**関西セミナーハウス活動センター**

賛助会費

岸田 晃子 3,000

金山 顕子 5,000

中上 和子 5,000

南 和子 10,000

寄付金

岩崎 裕保 2,500

柳井 一朗 5,000

日本基督教団西が丘教会 7,000

匿名 100,000

福島 和子 3,000

ワキタ シンジ 5

桃山アシュラム 5,000

廣瀬 芳之 1,000

君村 千代子 1,000

米澤 敏子 1,000

佐々木 紘児 1,000

藤本 和子 1,000

南 和子 1,000

津田 昭二 1,000

多田出 佳代子 1,000

松野 清美 1,000

君村 千代子 1,000

米澤 敏子 1,000

武山 泰子 1,000

山本 良昭 1,000

廣瀬 芳之 1,000

佐野 優美 1,000

佐々木 紘児 1,000

以上、感謝をもってご報告申し上げます。